

学会発表渡航支援報告書

(ふりがな) 氏 名	こ そんまん 高 誠晩	所属・職名 文学研究科社会学専修・D3
発表題名 (英 語)	Transitional Justice Strategy Adopted by the National State and Archive	
著 者 名	Sungman Koh	
会 議 名 (英 語)	The 40th World Congress of the International Institute of Sociology	
開催地(国、市)	India, Delhi	
参 加 期 間	2012年2月16日～2月19日	
<p>1. 大会及びセッション概要</p> <p>報告者は、2012年2月16日～19日にインドのデリー (India Habitat Centre) で開催された The 40th World Congress of the International Institute of Sociology (<a href="http://www.iisoc.org/iis2012">http://www.iisoc.org/iis2012</a>) に出席した。その際に、本 GCOE の学会発表渡航支援を受けた。今回の大会のテーマは、「After Western Hegemony: Social Science and Its Publics」であった。報告者が所属したセッションは、藤吉圭二 (高野山大学) 先生が主宰した「Archives for Maintaining Community and Society in the Digital Age」であったが、先生は、2008年ハンガリーのブダペストで行われた同大会で「Archives, Accountability, and Democracy in the Digital Age」というセッションを主宰したことがある。今回のセッションは、2月19日午後2時50分から6時まで行われたが、藤吉先生と高以外に日本からは、藤谷忠昭 (相愛大学) 先生と岡田順太 (白鷗大学) 先生が参加した。また、アメリカから Anne Gilliland (UCLA) 先生、インドから Vrunda Pathare (Godrej Archives) 先生、スペインから Natàlia Cantó-Milà (Open University of Catalonia) 先生、スウェーデンから Martin Berg (Halmstad University) 先生が参加し、各地域の事例が発表された。</p> <p>2. 発表概要</p> <p>今回の大会で報告者は、「Transitional Justice Strategy Adopted by the National State and Archive」という題目で報告した。ポスト・ジェノサイド社会において移行期の正義戦略 (Transitional Justice Strategy) として創案されるモニュメントは、アーカイヴと慰霊の機能を同時に持つといえる。このモニュメントは、ある社会が公認した死者、すなわち「犠牲者」のみを刻銘の対象とする。そして、移行期の国民国家は、弔いの場でこのようなモニュメントを通してコメモレイションを主宰する祭司長の役割を担当するようになる。それで、国家は、「虐殺した集団」から「清算する (正義</p>		

## 学会発表渡航支援報告書

の) 集団」に変貌することができるようになる。具体的には、済州 4・3 事件 (韓国) についての過去清算の事例を取り上げながら、モニュメントをめぐる刻銘の政治学について報告した。最後に、正義実現のプログラムがもたらすもう一つのコンフリクトを克服するためにオルタナティブ・ジャスティス (Alternative Justice) への可能性についても述べた。

### 3. 感想

すべての報告が終わった後 30 分間行われた総合討論で、報告者に対するフロアからの質問はなかったが、セッション終了後に報告者の発表に関心を示された研究者たちと話し合う機会を持つことができた。主に、体験世代が不在する今後においてモニュメントの社会的な役割は何か、オルタナティブ・ジャスティスの具体像とは何か等について議論が続かれた。英語による学会発表は今回が初めてであったため、いくつかの試行錯誤もあったが、様々な側面で今後の報告者の研究に役に立つ機会になったと考える。この機会に、深く感謝している。

